

【様式】

平成28年度 学校マネジメントシート

学校名（ 相可高等学校 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		「大いなる夢 大いなる挑戦 大いなる明日」をキャッチフレーズとし、常に進化しながら「生徒の夢をかなえる学校」、「地域と共に歩む学校」、「教職員がやりがいを実感し互いに高めあう学校」となることを目指します。
(2)	育みたい 児童生徒像	夢の実現を目指して自律的にかつ誠実に学び続けることができる生徒 変化や困難に対して柔軟にかつたくましく対応することができる力を有する生徒
	ありたい 教職員像	生徒の学力向上に努めるとともに生徒の人権と健康を守る教職員 同僚性を発揮するとともに互いに支えあうことができる教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		生徒、保護者、地域社会 ○学習指導・生徒指導・進路指導、部活動指導の充実 ○地域活性化への貢献 ○卓越した取組とその成果の継承	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	生徒：分かる授業・楽しい授業、進路実現、部活動の活性化 保護者：学習指導・生徒指導・進路指導の充実 地域社会：地域活性化への貢献	保護者：学校教育への理解・協力・支援、家庭での指導 地域社会：学校教育活動への理解・協力・支援、学習成果を発表・活用する機会の提供	
(3) 前年度の学校関係者評価等		キャリア教育について、普通科にかかる部分が弱い。地域との連携についても普通科としての関わりをより一層強めることはできないか。 先生方が自信を持って指導している姿が伺える。その強みをさらに生かして、生徒の学力が一層向上するよう指導の改善を進めていただきたい。 シラバスについて、生徒が読んで本当に役立つなど実際に進学指導や学科経営に生かすことができるものにしていただきたい。	
(4) 現状と課題	教育活動	○「生徒の夢をかなえる学校」に関して 生徒が希望進路を実現する学力を身に付けることができるよう、授業の工夫、課外補習、家庭学習の定着指導等各種の取組を進めており、一定の成果が見られつつあるが、より一層の成果をだすために、さらに取組の充実を図る必要がある。 ○「地域と共に歩む学校」に関して 専門学科が行う地域の行政・企業・教育機関等と連携した取組や一部の運動部・文化部による地域と連携した活動等により、本校は現在、地域になくてはならない学校として高い評価を受けている。	
	学校運営等	○「皆がやりがいを実感する学校」に関して 勤務時間を超えて分掌業務、部活動指導業務等に従事するなど恒常的な過重労働に陥っている職員や、放課後の補習・会議等で多忙感を感じている職員がいる。 授業・分掌業務・部活動指導等について、個人の力量や手法に頼るのではなく、協力・協同して取り組む体制の確立が必要である。	

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>○「生徒の夢をかなえる学校」に関して 全職員による共通理解の下で実効あるOJTと共通実践を継続することにより、生徒一人ひとりが自律的な生活習慣・学習習慣を身に付け、希望する資格を取得するなどして希望進路の実現を果たしている。</p> <p>○「地域と共に歩む学校」に関して 「地域と共に歩む学校づくり」を活性化するため、学校関係者評価を有効に活用しつつ、各学科の特性を生かした学科横断的な取組を地域と連携しながら多角的に展開し、その様子や成果を積極的に情報発信することにより、「相可高校ブランド」を創り上げている。</p>
学校運営等	<p>○「皆がやりがいを実感する学校」に関して 教育活動や学校運営を継続的に改善するための仕組みが機能して活気のある明るい組織風土が醸成されており、多くの生徒・保護者・職員が学校に満足している。 授業・分掌業務・部活動指導等について、協力・協同して取り組む体制が確立している。</p>

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	<p>○相可高校ならではの特色ある教育について、各学科で研究し、教育面での相可高ブランドの確立を目指す。</p> <p>○持続可能な地域づくりに貢献する各種の取組を行い、地域から信頼され必要とされる学校づくりを推進する。各学科は学科の特色を生かしたり学科間連携を図ったりするなど工夫をこらして、地域と連携した活動を行う。</p> <p>○地域社会にこだわりつつ、一方でグローバル社会で通用する力を持った人材育成に資する教育の在り方について研究する。 【活動指標】相可高ブランドとして情報発信できる取組各学科1つ以上 【成果指標】特色ある教育を受講し満足と答えた生徒の割合90%以上</p>	(年度末および適宜記載)	
キャリア教育の充実	<p>○進路保障という面からだけでなく、生徒の人生を豊かにするという観点からキャリア形成を促すため、普通科の3年間を見通したキャリア教育推進プログラムを作成する。専門学科においても、プログラムが未整理の場合は3年間を見越した計画として再整理する。 【活動指標】相可高校キャリア教育プログラムの作成 【成果指標】アンケートで「参考になった」と答えた教員の割合90%以上</p>	(年度末および適宜記載)	
改善課題			
(年度末に記載)			

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
授業力向上の取組	○今後必要となるアクティブラーニング等の指導に係る研修会を年3回実施し、授業の充実を図る。研修会実施にあたり、互見授業の手法などを取り入れ、より実践的な研修会とすることで、同僚性の発揮にむすびつける。 【活動指標】年3回に研修会の実施 【成果指標】アンケートで「参考になった」と答えた教員の割合75%以上	(年度末および適宜記載)	
働きやすい職場環境づくり	○総勤務時間の縮減に向け、効率的な業務推進や年休等の制度を有効活用しやすい環境整備に努める。 ○教育活動に対してすべての教職員が協力・協同して取り組むことができるよう意識の変革と向上を図る。	(年度末および適宜記載)	
改善課題			
(年度末に記載)			

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	(年度末に記載)
---------------------	----------

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	(年度末に記載)
学校運営についての改善策	(年度末に記載)